

2020年度.TSG報告



TSGとは



TSGとは、
Technical Study Group
(テクニカル・スタディ・グループ)

FIFAで1965年に設立され、1966年のFIFA主催の大会から実働を開始し、サッカーの変化の動向を分析し、トレーニングから判定まで、サッカーの技術・戦術的向上をサポートするグループの名称

JFAでは1998年のW杯仏大会、2002年W杯日韓大会から活動を本格化し、現在ではA代表のみならず、アンダーカテゴリーや女子の大会、世界大会ばかりでなく、アジアでの大会、ユース各年代の国内大会においても実施

滋賀県TSGの目的



- ◆ 現代サッカーのトレンドを知る
 - ・同じベクトルの共有

- ◆ 滋賀県の立ち位置の確認(各年代)
成果と課題の抽出
 - ・何ができて、何ができていないか
 - ・さらに良くするために何が必要か

- ◆ 今後の示唆

今年度の取り組み



- ゲーム分析(プレー分析)
- 映像編集
- データの収集
 - ブロック内への縦パスの本数とその成功率
 - 自陣でのファール数
 - 失点の傾向(得点の傾向)
- テクニカルレポートの作成

活動報告



カテゴリー		ゲーム分析した主な大会
2種	U18高体連	高校サッカー選手権滋賀県大会
	U16トレセン	関西トレセンリーグ(後期)
3種	U15クラブ	U15FAリーグ、関西サンライズリーグ、高円宮滋賀県大会
	U14トレセン	関西トレセンリーグ(交流戦)
4種	U12スポ少	全日本U12サッカー(全少)滋賀県大会
	U12トレセン	関西トレセンリーグ(交流戦)
女子	U15女子	U15女子FAリーグ、 全日本U15女子サッカー選手権(滋賀大会、全国大会)
	U18女子	全日本U18女子サッカー選手権(関西大会、全国大会) 全日本高校女子サッカー選手権(関西大会、全国大会)
	成年女子	関西女子サッカーリーグ

今年度の着眼点



昨年と同様の観点で分析・考察

2020.

〈攻撃〉

- 攻撃方向を意識した個のテクニック(縦パス／前を向く)
- 選手の関わりを増やし選択肢を持ってゴールを目指す

〈守備〉

- ファールせずにボールを奪う個のテクニック
- 選手の関わりを増やし意図的にボールを奪う

縦パスの本数とその成功率

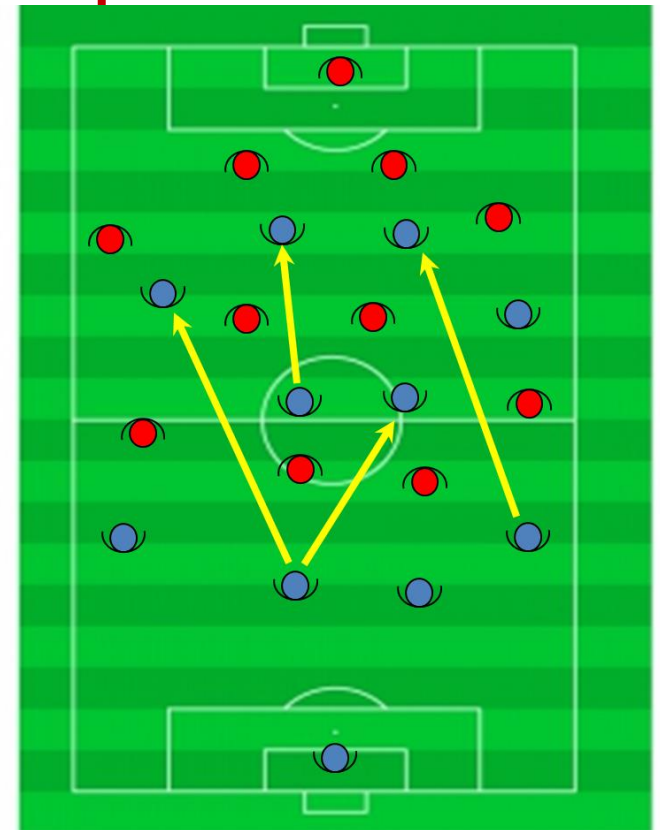
2020.

〈攻撃〉

- 攻撃方向を意識した個のテクニック(縦パス／前を向く)
- 選手の関わりを増やし選択肢を持ってゴールを目指す

〈守備〉

- ファールせずにボールを奪う個のテクニック
- 選手の関わりを増やし意図的にボールを奪う



縦パスの本数とその成功率



滋賀県(2種年代)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U18高体連	6	30.2	15.7	14.5	10.3	4.2	50.6%
U16トレセン	3	40.7	19.3	21.3	13.7	7.7	46.3%

他府県(2種年代)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U18高体連	—	—	—	—	—	—	—
U16トレセン	3	47.0	26.7	20.3	12.7	7.7	55.9%

縦パスの本数とその成功率



滋賀県(3種年代)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U15クラブ	1	20.0	10.0	10.0	4.0	6.0	50.0%
U15中体連	—	—	—	—	—	—	—
U14トレセン	2	45.5	21.5	24.0	15.0	9.0	46.4%

他府県(3種年代)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U15クラブ	5	36.6	23.0	13.6	9.2	4.4	62.2%
U15中体連	—	—	—	—	—	—	—
U14トレセン	2	55.0	31.5	23.5	16.5	7.0	57.3%

縦パスの本数とその成功率



滋賀県(4種年代)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U12スポ少	8	23.9	10.6	13.3	8.5	4.8	40.6%
U12トレセン	1	21.0	11.0	10.0	6.0	4.0	52.4%

他府県(4種年代)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U12スポ少	-	-	-	-	-	-	-
U12トレセン	1	18.0	9.0	9.0	4.0	5.0	50.0%

縦パスの本数とその成功率



滋賀県(女子)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U15女子	2	30.0	7.5	22.5	12.5	10.0	25.0%
U18女子	2	39.5	13.5	26.0	18.0	8.0	29.7%
成年女子	—	—	—	—	—	—	—

他府県(女子)

	試合数	ブロック内への縦パス(本)	成功数(本)	失敗数(本)	失敗の要因		成功率(%)
					出し手	受け手	
U15女子	8	53.9	30.6	23.3	15.8	7.5	50.6%
U18女子	13	58.8	35.5	23.4	15.4	8.0	57.1%
成年女子	—	—	—	—	—	—	—

縦パスの本数とその成功率



【参考.】

	試合数 (大会)	ブロック内へ の縦パス(本)	成功数 (本)	失敗数 (本)	失敗の要因		成功率 (%)
					出し手	受け手	
日テレ・ セリアス (U15)	2	95.5	64.5	31.0	19.0	12.0	67.5%
日テレ・ メニーナ (U18)	全日本 U18 (準決勝)	87	58	29	20	9	66.7%
浦和L (U18)	全日本 U18 (準決勝)	77	49	28	16	12	63.6%
大商学園	2	56.0	37.5	18.5	12.5	6.0	64.3%
日ノ本学園	2	63.0	45.0	18.0	10.5	7.5	65.6%

縦パスの本数とその成功率



滋賀県と他府県の比較

	ブロック内への縦パス(本)		成功数(本)		成功率(%)	
	滋賀県	他府県	滋賀県	他府県	滋賀県	他府県
U18高体連	30.2	—	15.7	—	50.6%	—
U16トレセン	40.7	47.0	19.3	26.7	46.3%	55.9%
U15クラブ	20.0 *	36.6	10.0 *	23.0	50.0% *	62.2%
U15中体連	—	—	—	—	—	—
U14トレセン	45.5 *	55.0 *	21.5 *	31.5 *	46.4% *	57.3% *
U12スポ少	23.9	—	10.6	—	40.6%	—
U12トレセン	21.0 *	18.0 *	11.0 *	9.0 *	52.4% *	50.0% *
U15女子	30.0 *	53.9	7.5 *	30.6	25.0% *	50.6%
U18女子	39.5 *	58.8	13.5 *	35.5	29.7% *	57.1%

縦パスの本数とその成功率



滋賀県の昨年との比較

	ブロック内への縦パス(本)		成功数(本)		成功率(%)	
	2020	2019	2020	2019	2020	2019
U18高体連	30.2	32.3	15.7	16.8	50.6%	50.1%
U16トレセン	40.7	23.5	19.3	11.5	46.3%	41.6%
U15クラブ	20.0 *	30.3	10.0 *	16.4	50.0% *	54.0%
U15中体連	—	11.8	—	3.8	—	31.0%
U14トレセン	45.5 *	33.4	21.5 *	17.7	46.4% *	51.9%
U12スポ少	23.9	24.2	10.6	9.7	40.6%	38.1%
U12トレセン	21.0 *	34	11.0 *	17.5	52.4% *	50.2%
U15女子	30.0 *	31.3	7.5 *	11.8	25.0% *	35.5%
U18女子	39.5 *	37.4	13.5 *	17	29.7% *	40.7%

縦パスの本数とその成功率



滋賀県の傾向

- ◆ 他府県と比較しても、本数は少なく、成功率も低い
- ◆ ブロック内へのパスのレンジが短い(多くがDF→MF)
- ◆ 攻撃の起点になるような縦パスやコントロール(前を向くシーン)は少ない
- ◆ 出し手のパススピードが遅かったり、受け手の体の向きやポジショニングが悪い

縦パスの本数とその成功率



育成への示唆

- アタッキングサードへ進入するための縦パスを増やし、質を高めたい
- より相手ゴールに近いブロック内でボールを受けられるように、ポジショニングやオフザボールの個人戦術を高めたい
- 縦パスが入った選手への関わりを増やしたい(サポート)
- 前を向く意識、前を向かせるパスの意識



縦パスの本数とその成功率



〈補足〉

- その試合の位置づけや、背景にあるレギュレーションは考慮に入れる必要がある。
 - ・勝ったら全国大会、トーナメント、etc.
 - ・次ステージ進出後の試合(3決)、リーグ戦、トレーニングマッチ、etc.
- ブロック内への縦パスの本数が多かったり、成功率が高ければ試合に勝てる…というものではない。ただ、質が高いといわれるチームや、勝ち残っていくチームの数値は高いものが多い。

自陣でのファール数



2020.

〈攻撃〉

- 攻撃方向を意識した個のテクニック(縦パス／前を向く)
- 選手の関わりを増やし選択肢を持ってゴールを目指す

〈守備〉

- ファールせずにボールを奪う個のテクニック
- 選手の関わりを増やし意図的にボールを奪う

自陣でのファール数



自陣でのファール(滋賀)

	試合数	試合時間 (分)	ファール総数 (回)	時間換算 (分)	1試合平均 (回)
U18高体連	6	520	20	80	3.3
U16トレセン	3	210	8	70	2.7
U15クラブ	1	80	1	80	1.0 *
U15中体連	—	—	—	—	—
U14トレセン	2	120	4	60	2.0 *
U12スポ少	8	320	7	40	0.9
U12トレセン	1	40	1	40	1.0 *
成年女子	—	—	—	—	—
U18女子	2	160	1	80	0.5 *
U15女子	2	120	3	60	1.5 *

自陣でのファール数



自陣でのファール(滋賀)

	試合数	試合時間 (分)	ファール総数 (回)	時間換算 (分)	1試合平均 (回)
U18高体連	6	520	20	80	3.3
U16トレセン	3	210	8	70	2.7
U15クラブ	1	80	1	80	1.0 *
U15中体連	—	—	—	—	—
U14トレセン	2	120	4	60	2.0 *
U12スポ少	8	320	7	40	0.9
U12トレセン	1	40	1	40	1.0 *
成年女子	—	—	—	—	—
U18女子	2	160	1	80	0.5 *
U15女子	2	120	3	60	1.5 *

自陣でのファール数



自陣でのファール(他府県)

	試合数	試合時間 (分)	ファール総数 (回)	時間換算 (分)	1試合平均 (回)
U18高体連	—	—	—	—	—
U16トレセン	3	210	10	70	3.3
U15クラブ	5	400	24	80	4.8
U15中体連	—	—	—	—	—
U14トレセン	2	120	0	60	0 *
U12スポ少	—	—	—	—	—
U12トレセン	1	40	1	40	1.0 *
成年女子	—	—	—	—	—
U18女子	13	1090	16	80	1.23
U15女子	8	640	10	80	1.25

自陣でのファール数



滋賀県の傾向

- ◆ カテゴリーが上がるにつれて数値が高い
- ◆ 競り合いにおける、手の使い方やポジション取りでのファール
- ◆ 相手がスピードに乗り、パワーを持った状態での対人プレーのファール
- ◆ 過剰なチャージや無理な体勢から奪おうとし、結果的にファールになる
- ◆ 腕の使い方やコンタクトのタイミングなど、技術的なファールになる要因
- ◆ メンタルコントロールの部分でファールが多くなるゲームもある

自陣でのファール数



育成への示唆

- ボールを奪える場面でしっかりと体軸を入れて奪いきる
- スピードに乗ったドリブルへの対応力
- 「いつ」「(相手が／自分が)どんな状況」であれば奪いに行けるのかの判断
- 正しいポジションからアプローチの距離(間合い)と速さ、コンタクトスキルの向上



自陣でのファール数



〈補足〉

- プレー強度が低いゲームの中で、ファールが多い少ない、では意味がない
 - ファールしなければいい、ということではない。(ファールしてでも止めなければならない場面もある…かもしれない)
 - 球際で強く行くことを要求 ⇒ ファールが増えてしまう
ファールせずに、と要求 ⇒ 強くボールに行かなくなる
- 我々指導者が強く行く、かつファールをせずにボールを奪う、
ということを求めているかなければならない

失点パターン(得点の傾向)



2020.

〈攻撃〉

- 攻撃方向を意識した個のテクニック(縦パス／前を向く)
- 選手の関わりを増やし選択肢を持ってゴールを目指す

〈守備〉

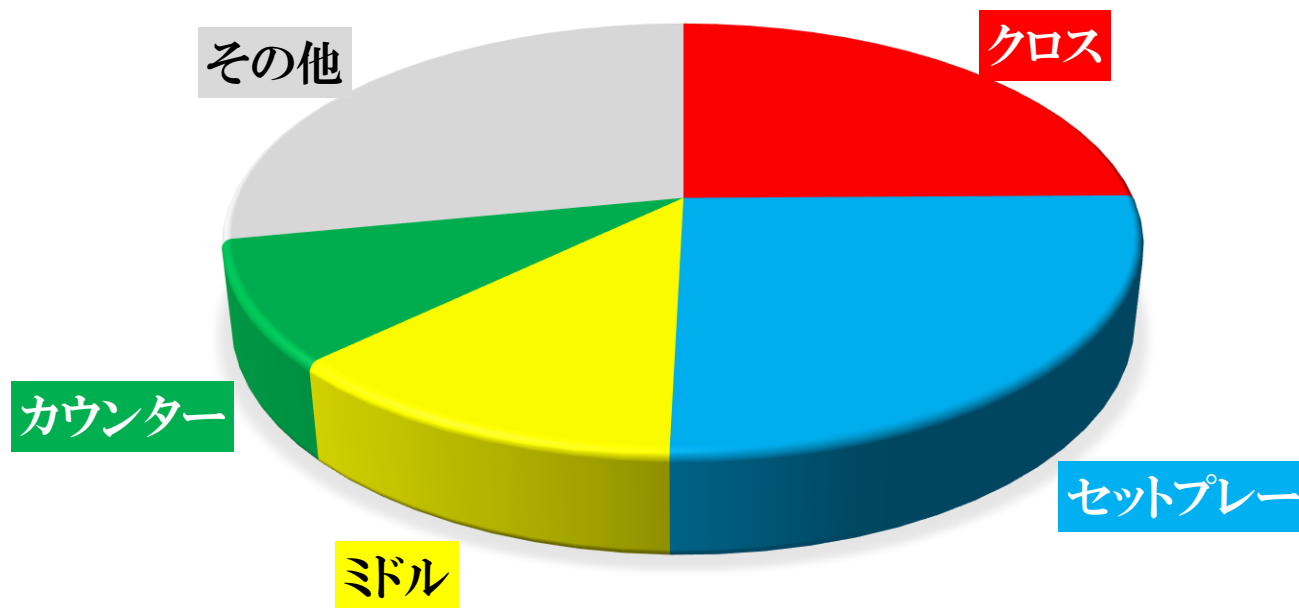
- ファールせずにボールを奪う個のテクニック
- 選手の関わりを増やし意図的にボールを奪う(ゴールを守る)



失点パターン(得点の傾向)



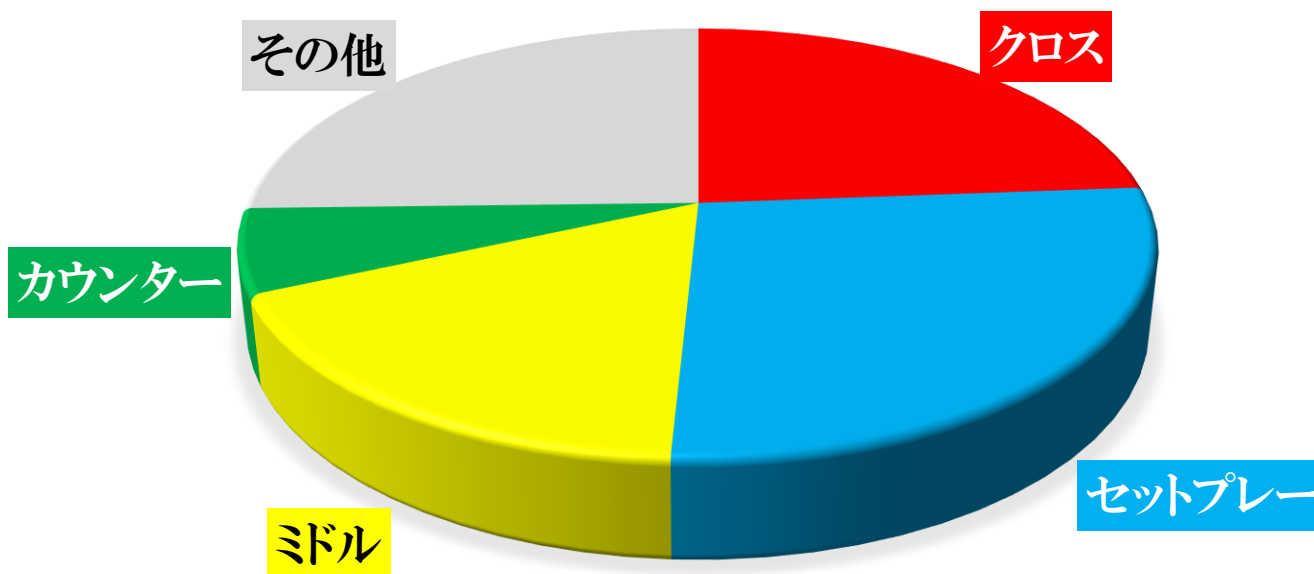
	試合数	クロス	セットプレー	ミドル	カウンター	その他	計
全体	58	30	31	15	11	34	121
		24.8%	25.6%	12.4%	9.1%	28.1%	



失点パターン(得点の傾向)



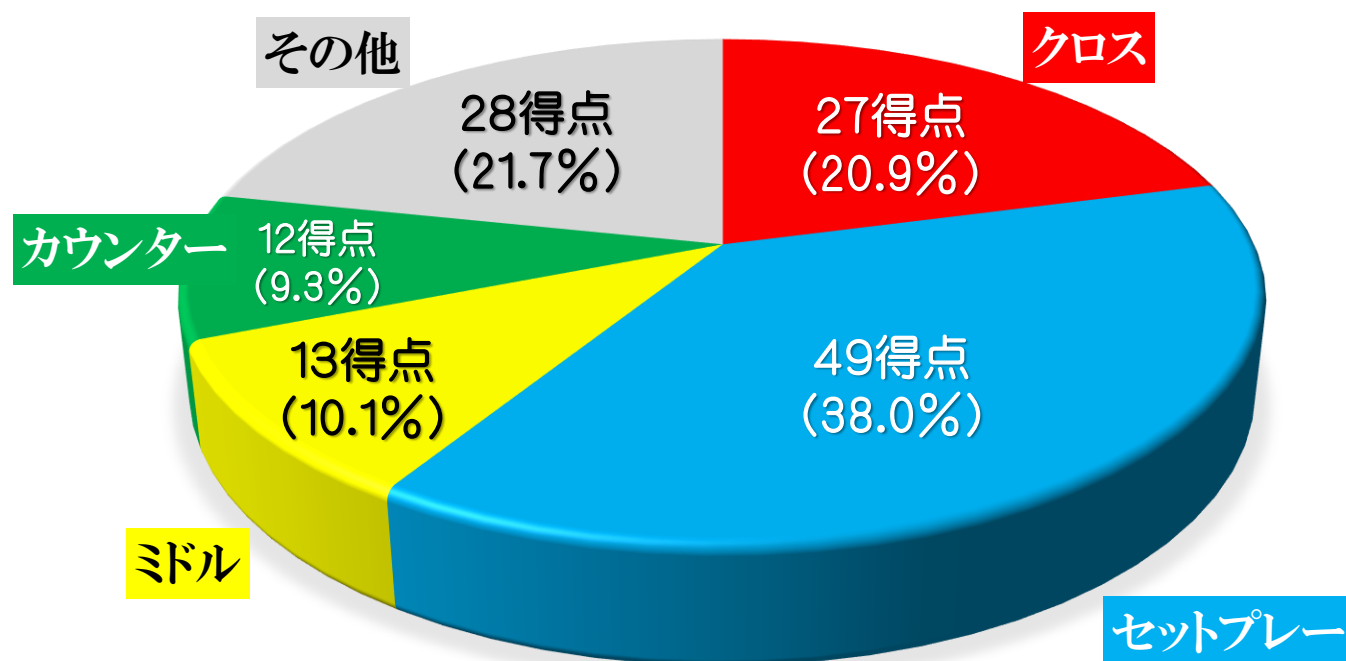
	試合数	クロス	セットプレー	ミドル	カウンター	その他	計
女子	26	15	17	11	4	16	63
		23.8%	27.0%	17.5%	6.3%	25.4%	



〈参考〉全国高校サッカー選手権大会 (得点の傾向)



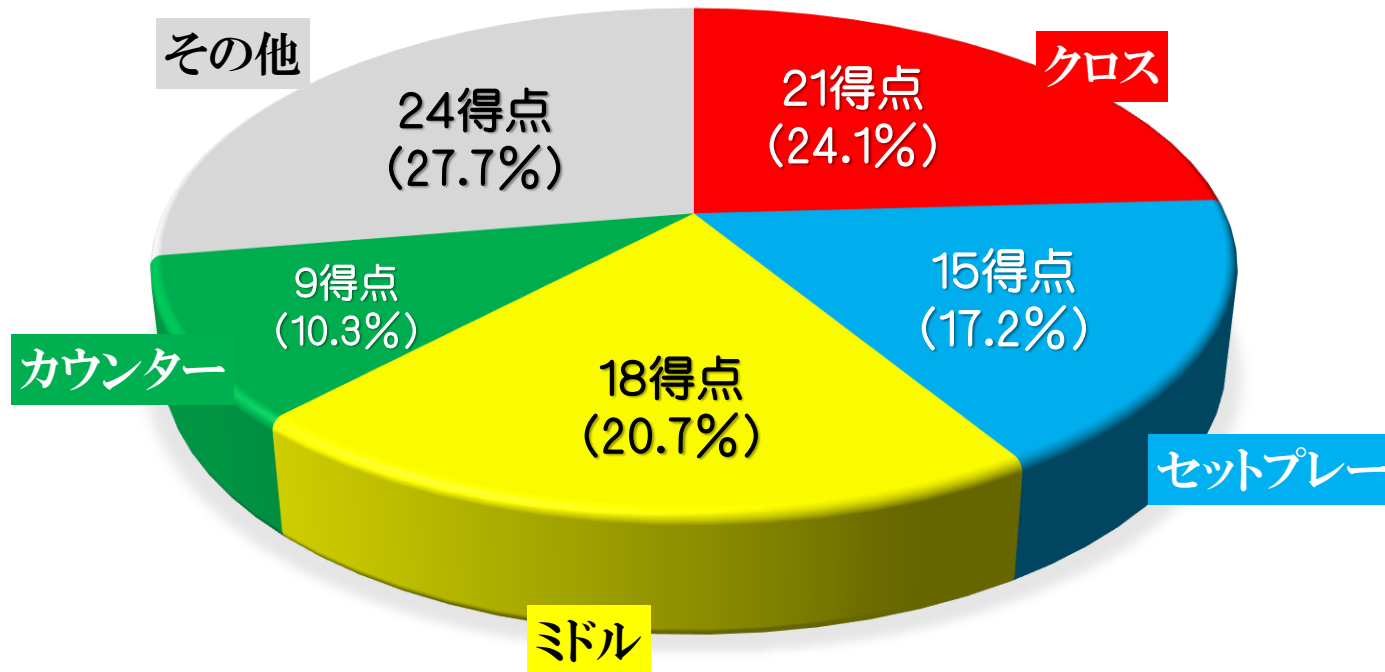
全129ゴール



〈参考〉全日本高校女子サッカー選手権大会 (得点の傾向)



全87ゴール



クロスによる失点が多い

- GKのプレーが大きく影響することから、GKと関係して守る意識を高くしたい
- 的確なポジションを取り続ける(同一視、ステップワーク)
⇒相手より先にボールに触る、大きなクリア
- クロスの守備を改善しつつも、クロスからの攻撃に必要な個人戦術の要素を高める(クロスの質、ゴール前への入り方)

セットプレーからの失点が多い

- セットプレーに対するオーガナイズの準備不足は否めない。壁の枚数やゾーン、マーク、ポジション、相手が変化したときの対応など、周知な準備が必要(守り方や役割分担を整理する)
- 想定外のプレーやセカンドボールに対して、さまざまな状況に反応できる開始姿勢の準備や瞬時の判断で対応する
- セットプレーの3局面(ボールが蹴られる前、蹴られたとき、蹴られた後)の状況をトレーニング時から気付かせるようにしたい

ミドルからの失点が多い(女子)

- GKの質の向上(ボール保持者の状況・ポジショニング・味方へのコーチング)
- ゴール前における守備の個人戦術を高め、奪いに行くのか、ゴールを守る(打たさない)のか判断できるようにしたい
- ミドルシュートを打たさない守備の構築をしつつも、ミドルシュートから得点を狙える攻撃に必要な要素を身につける

2021年に向けて



攻 撃

- 攻撃方向を意識した個のテクニックと関わり
 - ・縦パス、前を向く、サポート
- シュートテクニックの向上
- 多くの選手が関わりながら意図的にボールを動かすことができ、相手の状況を観てプレーする

2021年に向けて



守 備

- ファールせずにボールを奪う個のテクニック
- ボール状況に応じて、同時性を持ちながら連動し続け、意図的にボールを奪う

2021年に向けて



指導者

プレーのジャッジや基準の提示をポジティブな働き掛けで行なう指導者や、選手のプレーを見守り、主体的にプレーさせる指導者がいるチームは、選手が生き生きとプレーし、ピッチの中でお互いが積極的にコミュニケーションをとる姿や、ピッチ上の選手とベンチの一体感が見られる

2021年度 滋賀県出身Jクラブ内定者



野々村 鷹人

(桐原東SSS → FC湖東 → 綾羽高校 → 流通経済大 → 松本山雅)

中野 桂太

(FC草津 → 京都サンガU15 → 京都サンガU18 → 京都サンガ)

我々指導者が、
本気で日常を変えていく努力を
これまで以上に！



U16関西トレセンリーグ(後期)



各F Aの取り組みの成果を確認する場であり、
トレセン活動の集大成

育成年代の集大成として個人戦術とテクニックの完成期

U16関西トレセンリーグ(後期)



【大会全般】

- 日程・場所
12/19(土)・20(日)、J-Green堺
- 参加チーム
近畿2府4県のU16で選抜されたチームによるリーグ戦
(京都が不参加のため、5チームによる総当たりリーグ戦)
- 試合時間
70分(35分ハーフ)

第3戦 vs奈良(6-4)○ 第4戦 vs大阪(3-2)○

優勝！

	滋賀県			大阪府			和歌山県			兵庫県			奈良県			勝	分	負	勝点	得点	失点	点差	順位
滋賀県				○			○			△			○			3	1	0	10	13	8	5	1
				3	-	2	3	-	1	1	-	1	6	-	4								
大阪府	●						○			○			○			3	0	1	9	12	4	8	2
	2	-	3				5	-	1	1	-	0	4	-	0								
和歌山県	●			●						●			△			0	1	3	1	4	12	-8	5
	1	-	3	1	-	5				0	-	2	2	-	2								
兵庫県	△			●			○						○			2	1	1	7	7	2	5	3
	1	-	1	0	-	1	2	-	0				4	-	0								
奈良県	●			●			△			●						0	1	3	1	6	16	-10	4
	4	-	6	0	-	4	2	-	2	0	-	4											

U16関西トレセンリーグ(後期)



【滋賀の戦い(成果)】

- ボールを保持しながら組み立て、隙あらば背後を突くといった攻撃でチャンスメイクできた
- 前線からの献身的なプレッシングが高い位置でのボール奪取に繋がり、相手の守備が整わないうちに仕掛けることができた
- 滋賀の特徴を活かしたゴールシーンが多かった
(ドリブル突破:3点、カウンター:2点、クロス:2点)
- 決定機を決めきるストライカーの存在
- コーチの役割が試合毎に確立し、リレーションが上手く図れた

U16関西トレセンリーグ(後期)



【滋賀の戦い(課題)】

- 相手の状態を観察し、遅攻か速攻かの判断や、同サイドから仕掛けるのかチェンジサイドか、といった判断には課題が残る
- プレッシャーの厳しい相手ゴール前でも一瞬の隙を逃さないような関わりとテクニックの質
- 守備組織が整っていない(崩れている)時に、相手の攻撃を遅らせたり、跳ね返せずに失点やピンチを招いた
- 局面ではもっと厳しく、奪いに行く姿勢を見せたい。ボール保持者への寄せが甘く、自由にプレーさせている場面は多い

U16関西トレセンリーグ(後期)



【育成への示唆(攻撃)】

- 攻撃の優先順位を意識しながらも、相手の状況を観て判断を伴ったプレーをしたい
⇒ゴールを目指すことと、ボールを失わないことを判断
- スペースや時間のない中で、意図的にボールを動かし、仕掛けてペナルティエリアに進入し、シュートチャンス逃さない
- シュートテクニックの向上
⇒DFを外して打つ、ワンタッチ、ヘディング、四隅に強いシュートetc
- ドリブルはその場の状況に応じて使い分ける
⇒突破のドリブル、時間を作るドリブル、相手を変化させるドリブル

U16関西トレセンリーグ(後期)



【育成への示唆(守備)】

- ボールを失ったときに、1stDFのプレスのかかり具合に応じて、周りの選手が連動して奪いに行くのか、帰陣するのか判断できる
- ボール状況に応じて、同時性を持って全体が連動し続け、意図的にボールを奪いたい
- ボールの位置、状況でディフェンスラインをコントロールし、全体でスライドなどお互いの距離感を保ち、コンパクトな守備ブロックを維持したい
- 1stDFの質(良いポジションから奪いに行く)
⇒寄せるで終わらない、球際の激しさ、アプローチの速さ・距離、決断etc

U16関西トレセンリーグ(後期)



【育成への示唆(切り替え)】

- ボールから遠い選手、間接的に関わる選手の切り替えの意識を高くしたい(攻撃→守備)
- 奪ったボールを簡単に失わないためにも素早いサポートや、プレッシャーのかかった中でも判断し、正確なテクニックを発揮して攻撃に繋げたい(守備→攻撃)
- 攻撃をしながらも守備を意識し、守備をしながらも攻撃を意識したプレーを心がけたい(攻守の一体化)



全日本U15女子サッカー選手権大会



JFA 第25回全日本 U-15 女子サッカー選手権大会



©京橋雄一/ビー・アップ

2020年12月12日[土]～28日[月] 東京都、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県、滋賀県

主催：公益財団法人 日本サッカー協会、共催：公益財団法人 東京都サッカー協会、一般財団法人 東京都サッカー協会、一般財団法人 静岡県サッカー協会、公益財団法人 愛知県サッカー協会、一般財団法人 三重県サッカー協会、一般財団法人 岐阜県サッカー協会、公益財団法人 滋賀県サッカー協会
協賛：JFA Youth & Development Official Partner アイリスオーヤマ株式会社、トヨタ自動車株式会社、ニッパロ株式会社、株式会社モルタラ

JFA.jp

全日本U15女子サッカー選手権大会



【日程・場所】

〈1回戦・2回戦〉 12/12(土)・13(日)

磐田スポーツ交流の里(静岡)

三重交通Gスポーツの杜、他(三重)

グリーン・フィールド中池、他(岐阜)

皇子山陸上競技場、野洲川歴史公園サッカー場(滋賀)

〈準々決勝〉 12/19(土)・20(日) ウェーブスタジアム刈谷

〈準決勝〉 12/26(土) AGFフィールド

〈決勝〉 12/28(月) 味の素フィールド西が丘

全日本U15女子サッカー選手権大会



【滋賀県開催のマッチ】

〈一回戦〉

野洲川歴史公園サッカー場(ビッグレイク)

神村学園(九州1) 2-2(PK5-4) スフィーダ世田谷(関東5)

日テレ・セリアス(関東3) 4-3 RESC(関西2)

皇子山陸上競技場

FCみやぎ(東北2) 6-1 十勝FS(北海道1)

セレッソ大阪堺(関西1) 4-0 十文字中学校(関東8)

〈二回戦〉

皇子山陸上競技場

セレッソ大阪堺(関西1) 3-1 FCみやぎ(東北2)

日テレ・セリアス(関東3) 2-0 神村学園(九州1)

全日本U15女子サッカー選手権大会



【特徴あるチームスタイル】

- チームとしてゴールへ向かうタイミングの共有があり、相手の状況に応じてゆっくりとボールを動かすときと、スピードとパワーを持ってゴールに向かうときの使い分けが効果的(日テレ・セリアス)
- 突出した個はいなくとも、チームとしてコレクティブにハードワークしたチーム(神村学園)
- 前線のハードワーク、中盤でのプレッシング、ディフェンラインの身体能力など、守備で主導権を握れば攻撃に活力が出る(セレッソ大阪堺)

全日本U15女子サッカー選手権大会



【特徴あるチームスタイル】

- 組織的な守備でボール奪取のイメージをチームで共有し、奪ってからの攻撃が速い。シュートの意識も高く、隙があれば常にシュートを狙っているイメージ(RESC)
- フィジカルに優れ、スピードのある選手がゴールに向かう推進力がある(スフィータ世田谷)
- 相手の良さを消しながら、コンパクトな守備ブロックで数的優位を作り、攻撃はスピードのあるFWがソロやコンビで仕掛ける(FCみやぎ)

全日本U15女子サッカー選手権大会



【考察】

- 関東はじめ、北海道・東北・九州など各地域の強豪といわれるチームのゲーム視察ができた
⇒全国的に見ても地域差がある
- 全体的にポゼッションを試み、GKやディフェンスラインの選手を中心に攻撃を組み立てる傾向
⇒多くの選手が関わりながら意図的にボールを動かしているとは言えない
- コンパクトな守備ブロックを形成して組織的な守備を志向する傾向
⇒同時性を持ちながら連動できずに、簡単に展開される場面が多い

全日本U15女子サッカー選手権大会



【考察】

- 〈GK〉一回戦、二回戦では全国大会とはいえ、GKのレベルはチーム差があり、勝敗に影響した
- 〈CB〉守備範囲が広く、対人に強い。ビルドアップが失わずにハーフラインを越えるかはCBの能力が大きい
- 〈FW〉背後に抜け出すスピードや、フィジカルに優れた突破力のあるFWの存在から、各チームが地域予選を勝ち上がってきたことが伺える

全日本U18女子サッカー選手権大会



U-18

JFA U-18 WOMEN'S CHAMPIONSHIP

JFA 第24回全日本 U-18 女子サッカー選手権大会
JOC ジュニアオリンピックカップ

2021年1月3日[日]~7日[木] J-GREEN堺 [大阪府堺市]

主催：公益財団法人 日本サッカー協会 主審：一般社団法人 大阪府サッカー協会
会場：スエーデン・公園競技場 日本フットボール連盟 全日本高等学校サッカー協会 公益財団法人 日本中学校体育連盟
協賛：JFA Youth & Development Official Partner アリスオーヤマ株式会社 トヨタ自動車株式会社 ニッパン株式会社 株式会社モルテン

©高橋一ノノ・アキアキ

JFA.jp

全日本U18女子サッカー選手権大会

【大会全般】

〈1回戦〉	1/3(日)	〈2回戦〉	1/4(月)
〈休息日〉	1/5(火)		
〈準決勝〉	1/6(水)	〈決勝〉	1/7(木)

J-Green堺

北海道:1 東北:1 関東:5 北信越:1 東海:1
関西:2 中国:2 四国:1 九州:2

(前回大会の優勝・準優勝の地域より各1(関東・関東)含む)

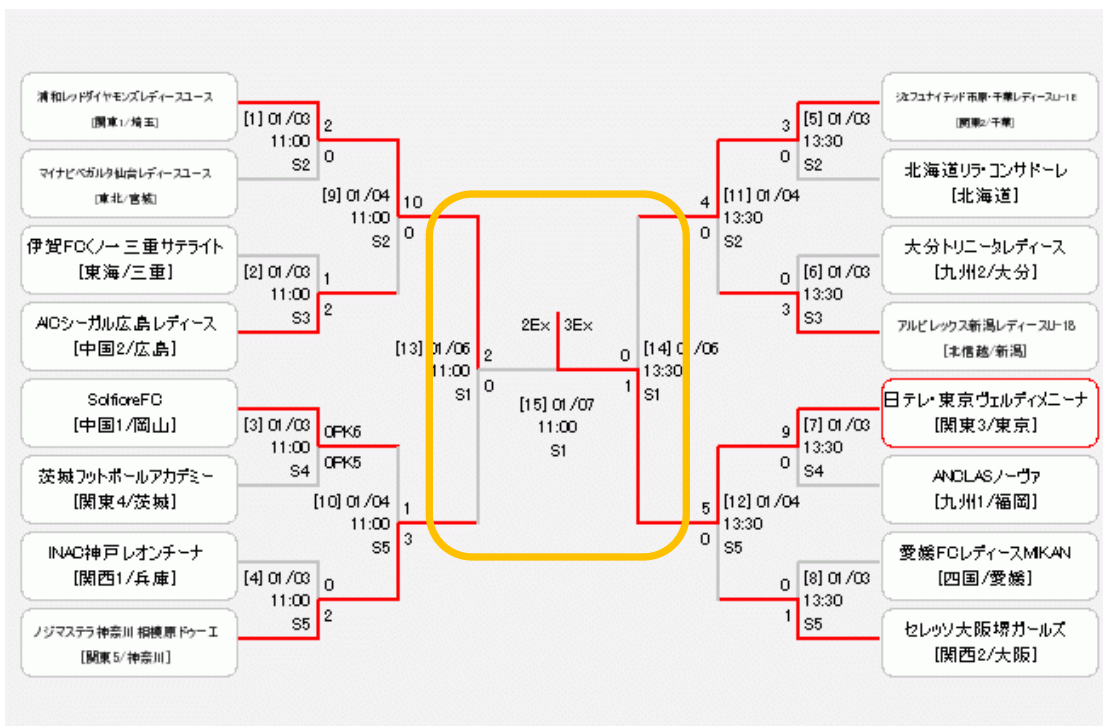
ノックアウト方式

1回戦～2回戦:80分 準決勝以降:90分



全日本U18女子サッカー選手権大会

【大会結果】



全日本U18女子サッカー選手権大会



【チームの特徴】

〈日テレ・メニーナ〉

- 個人戦術とテクニックの高さをベースにチームとして戦う
- ボールを大事にする意識が高く、GKやディフェンスラインの選手を中心に積極的に攻撃を組み立てる
- 相手の状況を観ながらボールを動かし、効果的なポジショニングを取ることで、有効なポゼッションからゴールに向かう

〈ジェフ市原・千葉〉

- 組織的に守備をすることが整理され、ディフェンスラインを中心にコンパクトな守備ブロックを形成し、全体でのスライドやお互いの距離感を保っていた
- 中央で前線の⑧番が起点になり時間を作って、追い越してきたサイドアタッカーの突破からチャンスメイクする

全日本U18女子サッカー選手権大会



【チームの特徴】

〈浦和レッズ〉

- アスリート性の高い選手が揃い、個人・ポジションの組み合わせ・組織とバランスが取れていた
- 前線の⑨番を起点に、2列目の選手が効果的に絡み合い、タレントの力でゴールを狙う

〈ジマステラ神奈川〉

- 組織的に守備をした上で、ボールを奪おうとする意識が高く、奪ったボールを前線の選手が起点になり、カウンターを仕掛ける場面が多かった
- 前線のタレントも守備に献身的で、状況に応じて守備のゾーンを変化させてきた

全日本U18女子サッカー選手権大会



【ポジション別の特徴】

〈FW〉

- 身体を使って時間を作り、チャンスがあれば裏へも飛び出すという2つのタスクをこなせる
- ファールを受けずに攻撃の起点になれる
⇒(チャンスをファールで潰されない)
- ゴール前での嗅覚(ゴール前への入り方、リバウンド)

〈SH〉

- スピードとテクニックの両方を持ち合わせ、積極的な仕掛けからチャンスメイクし、得点力もある
- 状況に応じたテクニックの発揮
⇒クロス、ボールキープ、動きながらのコントロール

全日本U18女子サッカー選手権大会



【ポジション別の特徴】

〈CMF〉

- ボール奪取力に優れ、労を惜しまない
- テクニックの高さ(前を向く・運ぶ・キック)に加え、視野が広い(展開力)
- ピンチ／チャンスを感じる力

〈SB〉

- 運動量とスプリント力を駆使した、タイミングの良い攻撃参加が組織的な守備ブロックを崩している
- プレッシャーのある中でもビルドアップしていけるテクニックと、堅実な守備能力

全日本U18女子サッカー選手権大会



【ポジション別の特徴】

〈CB〉

- 対人に強く、ボール奪取や予測、カバーリングで存在感
- ゴール前の冷静な判断(守る、繋ぐ)
- テクニック、フィード力(攻撃の起点になるパスの質)

〈GK〉

- 決定機の阻止
- 正しいポジションを取り続けられる
- チームで求められる攻撃への関わり(攻撃のスタート)

全日本U18女子サッカー選手権大会



【考察】

- ベスト4は関東の4チーム(力に地域差がある)
⇒お互いに手の内を知り尽くした対戦
⇒力の拮抗したチームが日常からリーグ戦で戦っている
- アンダーカテゴリーの代表選手や、なでしこリーグ・チャレンジリーグなどでプレーする選手も多い
- 高校女子サッカー選手権大会と比較しても、ワンランク上

全日本U18女子サッカー選手権大会



【参考】

日テレ	GK	1	野田 にな	U17代表	ジェフ	MF	10	湊上 野乃佳	U17代表
	DF	2	柏村 菜那	U17代表		FW	8	錦織 美紀	U17代表
	DF	4	熊谷 美布	U17代表	浦和	GK	1	福田 史織	U20代表
	MF	8	大山 愛美	U17代表		GK	21	前田 真唯	U17代表
	MF	10	木下 桃香	トップ出場		DF	5	平中 響乃	U17代表
	MF	18	松永 未夢	中2		MF	18	角田 楓佳	U17代表
	FW	9	山本 柚月	U20代表		FW	9	島田 芽依	U20代表
	FW	7	土方 麻椰	U17代表		FW	11	丹野 凜々香	U17代表
ジェフ	GK	21	田村 亜沙美	U17代表	ノジマ	FW	19	西尾 葉音	U17代表
	GK	25	大熊 茜	U17代表		MF	26	西郡 茉優	U17代表
	DF	2	内田 果菜	U17代表		FW	4	根府 桃子	U17代表